

きらり 通信

平成26年9月2日（火）発行 第18号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp>

「わかりやすく伝える」ためのコツ 教頭 最上 学

●子どもたちの支援会議や、教育相談で話をするときに知っておくと役に立つテクニックです。

「わかりやすく伝える」技術は、授業を進める時にも大切にしたいことですね。

相手の気持ちを動かすかわり方ができるように、相手を受け入れる気持ちを持ち準備をしましょう。

相談者の気持ちをもつアランの提示

わかりやすく伝える

アセンション技術

課題はなかなか 支援アランは

●説明は視覚的に、相談支援ツールの活用
カードや具体物
= 資料集
相談内容に合わせて作成

相談者のことを知ろう
何を求めているのか
子供をどう見ているのか
話の受け入れはどうか
経験や理解はどうか

相談者の気持ちに
そわない提案は
受け入れにくい。

●関係する支援者に
集まってもらう
・情報交換
・支援体制作り

解決に向けて相談者の気持ちをどう動かせるか。

学校も地域支援の1つとしてコーディネートする。



障がい者スポーツでつながろう その1



パラリンピックがテレビで中継される等、障がい者スポーツが注目される機会が増えてきました。スポーツは余暇を充実させるだけでなく、仲間や地域とかがわる機会としても大きな意味を持っています。今回は、県内で行われている定期的な活動をいくつかご紹介します。

1つ目は、福島県障がい者スポーツ協会主催のスポーツ教室です。陸上・ボッチャ・フライングディスクなど、9種目が開催されています。詳しい種目や開催日程等は、協会のWebページをご覧ください。

2つ目は、毎月第1・第3土曜日の午後にあぶくま養護学校を会場に活動している「みんなでスポーツ」というサークルです。毎回30名くらいが集まり、フライングディスク、少林寺、キンボール、ボウリングなどを楽しんでいます。

3つ目は、郡山・白河・いわきの各地区でそれぞれ毎週土曜日に活動しているサッカークラブです。全国大会を目指すメンバーと、身体を動かすことを楽しむエンジョイメンバーに分かれて練習しています。

まずは気軽に、見学や体験から始めてみてください。

(文責 笹山)



▲キンボールの様子

「社会・仕事」への一步 ~特別支援学校作業技能大会に参加して~

7月29日(火)に県内の養護学校の高等部生がビッグパレットに集まり、「第2回特別支援学校作業技能大会」が開催されました。ビルクリーニング・喫茶接客・パソコンデータ入力の各検定、作業製品の品評と展示、デモンストレーションが行われ、日頃の作業学習の成果を発表するよい機会となりました。

パソコンデータ入力検定はキーボードの音だけが響く緊張感漂う会場で行われましたが、みな落ち着いた様子で、30分間集中して取り組むことができました。作業製品品評の際には、作業学習で作った木工製品や布製品についてプレゼンする機会が設けられました。審査員の前でも臆することなく、作業の工程や工夫した点などを発表していました。また、他校の作業製品を見たり、実演コーナーで作業を体験したりすることもでき、交流をしながらたくさんの刺激をもらったようです。



▲パソコン検定の会場



▲作業製品品評の布製品部門では本校製品が金賞を受賞!



普段の作業学習の中で、子どもたちは働くために必要な様々な知識や技能を学んでいます。その発表の機会である作業技能大会を一つのきっかけに、学校の外に目を向け、社会の一員として生きていく意識を持てるよう支援していきたいと思っています。(文責 宗像)

☆きらりちゃん日記☆



「いつも突然なんだから。」何度注意しても変わらない。」と思うことも多いですね。このような時、子どもの行動の理由や背景を考え、そこにアプローチすることも大切です。説明が苦手な子どもたちも多いですね。

本の紹介

今回は「高次脳機能障がい」に関する本をご紹介します。



事故や病気によって脳が傷つくことで表れる様々な障がいについて、分かりやすく説明されています。生活面での配慮も具体的に書かれており、入門書としておすすめです。(紹介者：星)

脳の構造と機能から病気のメカニズムまで幅広くカバーした本です。第3章「脳の高次機能と活動」では記憶や学習、情動等について、イラスト入りで解説されています。(紹介者：柳内)



《僕の記憶は80分しかもたない》事故の後遺症で記憶障がいを抱える「博士」、家政婦の「私」とその息子「√」の物語。第1回本屋大賞を受賞し、映画化もされた作品です。(紹介者：大場)